

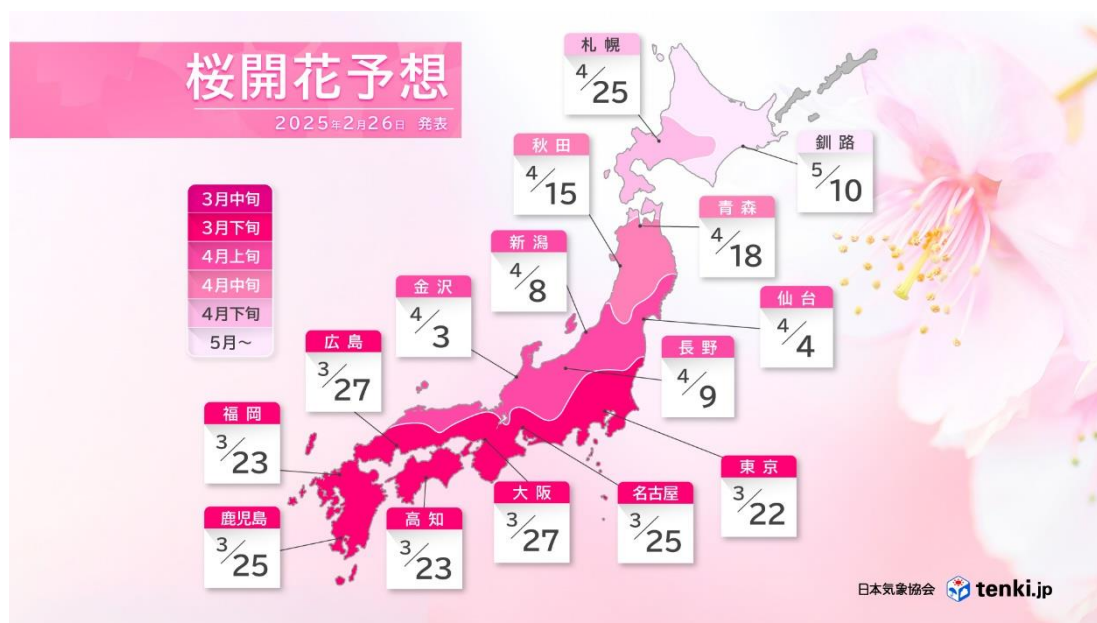
【報道関係各位】

2025年2月26日  
一般財団法人 日本気象協会

## 2025年桜開花予想（第2回） 開花トップは東京で3月22日 北へいくほど平年より早い開花に

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国 53 地点の桜の開花予想（第2回）を、2025年2月26日（水）に発表します。

### 開花予想前線図



### 開花予想日(主な地点)

地点		開花予想日と傾向(平年比)		平年	昨年
北海道(道東)	釧路市	5/10	早い	5/16	5/3
北海道(道央)	札幌市	4/25	早い	5/1	4/18
青森県	青森市	4/18	早い	4/22	4/15
宮城県	仙台市	4/4	早い	4/8	4/2
秋田県	秋田市	4/15	平年並	4/17	4/10
東京都	千代田区	3/22	平年並	3/24	3/29
長野県	長野市	4/9	平年並	4/11	4/8
新潟県	新潟市	4/8	平年並	4/8	4/6
石川県	金沢市	4/3	平年並	4/3	4/1
愛知県	名古屋市	3/25	平年並	3/24	3/28
大阪府	大阪市	3/27	平年並	3/27	3/30
広島県	広島市	3/27	平年並	3/25	3/25
高知県	高知市	3/23	平年並	3/22	3/23
福岡県	福岡市	3/23	平年並	3/22	3/27
鹿児島県	鹿児島市	3/25	平年並	3/26	3/29

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



## 開花の傾向

2025年の桜の開花は、西日本と東日本ではおおむね平年並み、北日本は平年並みか早いでしょう。

今年の桜の開花は、3月22日に東京からスタートする見込みです。福岡では23日に、名古屋では25日に、大阪では27日に開花し、3月末までに九州から関東にかけての広い範囲で開花するでしょう。

4月に入ると、桜前線は東北地方まで北上し、仙台では4月4日に、青森では18日に開花する見込みです。4月下旬には北海道へ到達し、札幌では25日に開花するでしょう。前回の予想に比べ、西日本と東日本は2月の気温が予想より低く推移した所が多く、北日本は4月の予想気温が前回よりやや低くなったことから、開花予想日は広い範囲で数日遅くなりました。

桜の花芽の休眠に影響するとみられる11月の気温は、西日本ではかなり高くなりました。一方で、12月から1月にかけては寒気が流れ込み、桜の花芽は寒さにさらされたため、休眠打破<sup>\*</sup>の遅れの影響は小さいとみられます。

西日本と東日本では、2月はたびたび強い寒気の影響を受け、厳しい冷え込みになりました。3月に入ると気温は平年並みか高くなる見通しですが、寒暖の差が大きく、寒の戻りがあるでしょう。このため、西日本では平年より遅い開花となるところもありますが、おおむね平年並みの開花となる見込みです。

北日本は、2月の気温は平年並みか高く、3月から4月にかけても平年より高めの傾向が続くため、桜の開花は平年並みか早いでしょう。

※休眠打破：前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全53地点の桜の開花予想日は、天気予報専門メディア『[tenki.jp](https://tenki.jp)（てんきじえーびー）』桜の開花予想ページ（<https://tenki.jp/sakura/expectation/>）にて公開しています。

### 【言葉の説明】

平年：1991～2020年の平均値

かなり早い	: 平年よりも7日以上早い
早い	: 平年よりも3日から6日早い
平年並	: 平年との差が2日以内
遅い	: 平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	: 平年よりも7日以上遅い

以 上



## 参考資料

### 桜開花予想に関するよくあるご質問

#### Q1:桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1:以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月29日(水)	第2回 2月26日(水)	第3回 3月5日(水)	第4回 3月12日(水)
第5回 3月19日(水)	第6回 3月26日(水)	第7回 4月2日(水)	第8回 4月9日(水)
第9回 4月16日(水)	第10回 4月23日(水)	第11回 4月30日(水)	

#### Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

#### Q3:予想する地点数は？

A3:1月は49地点、2月は53地点、3月以降は全国で約80地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約30地点となります。

#### Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で19年目の取り組みです。

#### Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。